

群馬県衛生環境研究所年報

ANNUAL REPORT OF GUNMA PREFECTURAL INSTITUTE
OF PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENTAL SCIENCES

NO. 46 2014

群馬県衛生環境研究所

ま え が き

2013年から14年にかけての公衆衛生・環境分野の出来事を概観してみます。

国内ではデング熱の発生がありました。海外では何といても西アフリカにおけるエボラ出血熱の大流行が挙げられます。これまでの小規模の流行とは異なり、欧州や米国にも飛び火し国際的な問題となっています。我が国に波及する心配は今のところ少ないようですが、致死率の高い危険な感染症であるため、十分な対応策が必要です。

また、東日本大震災による福島第一原発事故の放射線健康影響について、環境省の専門家会議の中間報告がまとまったところ（平成26年11月26日）ですが、「推計される被曝線量では、がん患者が増える可能性は低い」との評価が盛り込まれました。福島原発事故での被曝量では健康影響はまずないだろうということは、発生当時からの多くの専門家に共通する見解でしたが、メディアの加熱報道にパニック心理が加わって、明らかに過剰な対策までが正当化され、必要のない除染などに公的予算が無駄に費やされているとの印象を強く持ちます。

今回の原発事故では「被曝そのものによる死者は一人も発生していない」、この事実を国民や政治家は改めて認識する必要があると考えます。環境領域で問題とされているPM_{2.5}についても、その健康影響は過大に喧伝されています。むしろ喫煙を減少させることの方がCOPD対策としてはるかに重要です。

わが国における政治や行政の方向性を決める人たちに、科学的根拠を軽視する傾向があることは、これまでも指摘されてきたことですが、最近この傾向が著しいように感じられます。これは私たち科学者、技術者にも責任の一端があります。地方衛生研究所、地方環境研究所は、衛生行政、環境行政に資する科学的根拠を提示することが大事な役目です。

今後も群馬県衛生環境研究所の取り組みへのご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

2014年11月

群馬県衛生環境研究所長 小澤邦壽

目 次

ま え が き

I 機 構

1 沿 革	1
2 組織と業務内容（平成 26 年 4 月 1 日）	3
3 職員一覧（平成 26 年 4 月 1 日）	4
4 決算（平成 25 年度歳出目・節別調書）	5
5 主要備品一覧	6
6 学会・研究会及び会議への出席	7

II 業務実績

1 水環境・温泉研究センター	11
2 感染制御センター	14
3 研究企画係	16
4 保健科学係	18

III 調査研究

報文

1 発生源周辺における大気中塩化メチル濃度 一条美和子、熊谷貴美代、齊藤由倫、中曽根佑一、田子 博	21
2 大気中微小粒子状物質 (PM _{2.5}) の成分調査結果 熊谷貴美代、一条美和子、齊藤由倫、田子 博	27

短報

3 前橋における酸性雨調査 田子 博、一条美和子	33
-----------------------------	----

IV 資 料

1 尾瀬沼水質調査およびコカナダモ生育状況観察結果 梅澤真一、高坂真一郎、佐藤侑介、山口直哉、中島穂泉	39
2 平成 25 年度群馬県感染症流行予測調査結果 松井重憲、齋藤美香、河合優子、後藤考市、丹羽祥一、吉住正和、 塩野雅孝	43
3 平成 25 年度に感染症発生動向調査から検出されたウイルス 丹羽祥一、佐々木佳子、塚越博之、黒澤 肇	49

V 発表業績

1 学会誌等への投稿	
1 Cytokine profiles, signalling pathways and effects of fluticasone propionate in respiratory syncytial virus-infected human foetal lung fibroblasts.	53
2 Molecular epidemiology of respiratory viruses in virus-induced asthma.	
3 Evidence for reactivation of human herpesvirus 6 in generalized lymphadenopathy in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome.	
4 Novel reassortant influenza A(H1N2) virus derived from A(H1N1)pdm09 virus Isolated from swine, Japan, 2012.	54
5 Molecular evolution of attachment glycoprotein (G) gene in human respiratory	

	syncytial virus detected in Japan 2008-2011.	
6	Severity of respiratory signs and symptoms and virus profiles in Japanese children with acute respiratory illness.	
7	Genetic analysis of the VP4/VP2 coding region in human rhinovirus species C in patients with acute respiratory infection in Japan.	55
8	Elevated MIP-1 α and IL-17 Production in Experimental Asthma Model Infected with Respiratory Syncytial Virus .	
9	Genetic analysis of attachment glycoprotein (G) gene in new genotype ON1 of human respiratory syncytial virus detected in Japan.	
10	Neurite Outgrowth in PC12 Cells Stimulated by Components from <i>Dendranthema × grandiflorum</i> cv. “Mottenohoka” Is Enhanced by Suppressing Phosphorylation of p38MAPK.	56
11	Triplex real-time polymerase chain reaction assay for detection and quantification of norovirus (GI and GII) and sapovirus.	
12	Long-Term Parvovirus B19 Infections With Genetic Drift After Cord Blood Transplantation Complicated by Persistent CD4 ⁺ Lymphocytopenia.	
13	温泉流動の理解を目的とした温泉水中希土類元素の地球化学的指標性の検討	
14	群馬県における PM _{2.5} 汚染の特徴	57
2	学会等での発表	
1	A molecular epidemiological study of respiratory viruses detected in Japanese children with acute wheezing illness.	58
2	関東内陸における大気エアロゾル中の有機指標成分の挙動	
3	群馬県平野部における PM _{2.5} 濃度と化学組成の地域特性	
4	群馬県における PM _{2.5} の濃度上昇パターン事例 —NO ₃ 粒子の広がりの違い—	
5	群馬県内の豚におけるインフルエンザウイルス保有状況について	59
6	2013 年 2 月に観測された広域 PM _{2.5} 高濃度現象の群馬県における要因について	
7	大気エアロゾル中の生物起源二次有機マーカー(BSOA マーカー)の測定	
8	濾過装置におけるレジオネラ標準株を使用した培養方法の基礎的検討	60
9	ノロウイルス, サポウイルスをターゲットにした Multiplex Real-time PCR 系の確立	
10	ヒトメタニューモウイルス簡易検査キットの有用性の検討	
11	大気環境に関する体験型環境学習プログラムの開発 —地環研がもつノウハウの新たな地域貢献への活用—	
12	有害大気汚染物質の環境基準超過事例	61
13	腸管出血性大腸菌感染症 O157 の家族内感染における感染源調査	
14	牛が感染源と推定された腸管出血性大腸菌感染症の疫学的解析	
15	地方環境研究所等による水質汚濁事故原因究明への取組みについて	62
16	大気環境学習を通じた喫煙による室内汚染の認識	
VI	研修・業績発表会	
1	当所で実施した研修	63
2	当所で受け入れた視察、研修	64
3	業績発表会	65